

# ハスヌマ通信 第10号

発行人 板倉直壽 (なおひさ) TEL/FAX 0548-29-0961

牧之原市を明るく強くする、行政への提言。住所 〒 421-0411 静岡県牧之原市坂口 2142 番地 1

2024.9.7 発行 「ハスヌマ」は家の屋号です。印刷所 アスクル (株) 東京都江東区豊洲 3-2-3

○御意見をお待ちしています。PC [ginzanokaze@nifty.com](mailto:ginzanokaze@nifty.com) 携帯 080-3420-8075 (ショートメール)

○私は、戦後のいわゆる自虐教育の中で育ちました。失われた日本人の誇りを取り戻したいと思います。



## 1、小中学校統合の白紙撤回を求めます。 第4回

～大規模な義務教育学校を造れば、①教育環境は悪くなり、②市の財政負担は重くなり、③小学校区共同体の衰退に拍車がかかります。～

### I、小中統合して生徒数を増やさないと、本当によい教育はできないの？

市教育委員会は、小中統合して、【クラス替えができる程度】に生徒数を増やさないとよい教育ができないと言っているのですが、本当にそうでしょうか。

因みに WHO (世界保健機関) は世界各国に対して、学校の生徒数が 100 人を越えないように勧告しているそうです。これは単学級を意味します。また、「ユネスコ文化統計年鑑 1999」によれば、平均値で見ると、欧米の多くの国は、全校生徒 100 人から 200 人ほどに対して日本は 300 人ほどです。欧米と日本を単純には比べられませんが、少なくともこのような考え方が世界にはありますし、少人数学級の方が教育にはよいという意見は多数あります。

### II、以下は教育委員会の主張とそれに対する反論です。その1

最初に申しますが、そもそも市教育委員会は、義務教育学校の長所とするものをいろいろ上げながら、殆どその理由を示していません。それは、小中統合という結論が先にあり、理由が後付になっているからでしょう。市が長所として上げるものは 10 校でもでき、学問的根拠がなく、素人も首を傾げることばかりです。つまり、小中学校統合・9 年制は必要ないのです。

#### (1) 統合により学校は【適正規模】になるの？

市 (文科省) は「クラス替えができる程度の人数がよい。そのためには、小、中共に 12～18 学級 (小学校は各学年 2～3 クラス、中学校は 4～6 クラス、1 学年 35 人か 40 人まで)、義務教育学校は 18 学級～27 クラスが適正規模である」としています。これでいくと全校生徒は小、中学校は 480～720 人、義務教育学校は 720～1080 人程度になります。

しかし、文科省のいう「適正規模」は教育のそれではなく財政的なそれだと言われていますし、少人数校、少人数学級の方が間違いなく教育によいという研究報告も多数あります。

坂部小、勝間田小、菅山小、萩間小は現在 100 人～150 人くらいですから、WHO の基準 100 人から見れば理想に近いということになります。

なお、全国には、1 学級数名、全校生徒 10 人、20 人というごく小規模の学校が少なからずありますが、多くは離島や山奥の学校です。牧之原市の小学校 8 校は生徒数が 100 人以上で、決して少なくはないのです。確かに、昔は 1 千人、2 千人規模の学校もありましたが、子供が多く、貧しく、最低限の教育をすることが第一だった時代の話です。

ところで、次のような考え方があります。「校舎や教材や教師の指導力は良い教育とは関係ない。大事なものは生徒の主体性だ。少人数学級だと、1 人 1 人の存在感が高まり、勉強でもクラス活動でも生徒は自分の意見を言う機会が増え、主体的に関わることができ、周りからも認められるから、授業もクラス活動も面白くなり主体性が育つ。一方、多人数学級では 1 人 1 人の存在感が低下し、生徒は教師の言うことを聞くだけになり、受け身になり、自分の意見を言う機会が減る。だから勉強もクラス活動も面白くないし主体性が育たない。」市の言う「自分で考える力」を育てるとは、受け身ではなく「主体性を育む」ことではありませんか？

## (2) 統合すれば切磋琢磨ができる？

①市は「切磋琢磨ができる学校」が理想で、それには統合が必要だと言いますが、少人数校では切磋琢磨ができないのでしょうか。否。子供たちには近くに数人の競い合い刺激し合える人がいれば切磋琢磨は十分にできるのであって、大勢の人はいらぬのです。たとえばスポーツなら、学校で1番、市で1番、県で1番、全国で1番と、選手は身近な数人のライバルと切磋琢磨をして勝ち上がっていくわけです。不特定多数の人と競い合うわけではありません。

②今はインターネットも日常的な道具ですから、離れた者同士がこれを使ってそれぞれの興味や目的に応じて競い合い刺激し合うことは容易にできます。ゲーム、趣味、勉強など、遠くの子供と交流しながら切磋琢磨して成長できます。多人数で群れる必要はないのです。

③もし、学力のことが心配、受験勉強をさせたい、などの希望があれば、地元や東京の予備校の模試で実力を試したり、講座を受講したり、通信教育を受けることができます。義務教育学校だと受験に有利でしょうか。

## (3) クラス替えができるのはよいこと？

教育委員会は【クラス替えができる】のがよいと当たり前のように言いますが、それが良いという学問的研究結果は出ていない模様です。一方、WHOのように6年間単学級がよいとする研究成果は多数あるようです。子供は流動性の少ない安定した人間関係の中で、主体的に自分を表現でき、互いに認め合い尊重される関係の中でこそ成長できるのだと思われます。

なお、私の試算では、仮に1クラスが30人だとして、3回クラス替えをすると（小学校は2年ごと、中学校は毎年）、同級生になれるのは70人程度だと思われます。つまり1学年に100人、150人の生徒がいても同級生になれるのは $30 \times 2 + \alpha \approx 70$ 人程度なのです。

## (4) 生活のきまりや学習スタイルが9年間統一され、安心と期待を持って学校生活を送れる。

9年間統一されると、安心？期待？意味がよくわかりませんが、何がよいのでしょうか。

## (5) 個の学びや育ちを全教員で共有でき、指導しやすい。生徒の成長を見守ることができる。

いったい誰が生徒の9年間を見守るのでしょう。クラス替えや教員の移動があります。また、生徒も教員も格段に増え、生徒の情報の共有や見守りは難しくこそなれ、容易になるわけがありません。何を言っているのか意味がわかりません。言葉遊びに聞こえます。

今回はここまでとして、次回以降の予定は第1回目をご覧ください。（次回へ続く）

## 2、牧之原市立産科診療所（病院）があったらいいな？ 空想

榛原総合病院には産科と精神科（入院）がありません。医療法人徳洲会を指定管理者にしてからなくなりました。赤字が減ったかのような話がありますが、産科、精神科は社会的医療と呼ばれ黒字になりにくい部門ですが、それがなくなったのです。そこで牧之原市に市立の産科診療所があったらなと思います。医師2名、病床数10程度でも、年間数百人のお産ができます。民間に委ねず、市が全力で運営することが市民、特に女性への責任だと思えます。そして、それが何十年後かに産科専門病院に育てば、市の中心的な事業になるかもしれません。医師・助産師・看護師・検査士・事務職などとして牧之原市の若者がそこで働くことができます。公立病院の課題は赤字ですが、民間病院は黒字で頑張っていますから黒字経営ができないはずはありません。赤字の主たる原因は、①医師不足、②建物を豪華にしすぎる、③自治体の人事管理が優先され、人事がたらい回しになり、病院経営に疎い人が歴代責任者に着く、などです。

■後書き■ 最後までお読み下さり有り難うございます。

**【学校教育法施行規則第79条の3】**

義務教育学校の校の学級数は、18学級以上27学級以下を標準とする。  
ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

第七十九条の三義務教育学校の学級数は、十八学級以上二十七学級以下を標準とする。ただし、  
地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

単学級で6年間一緒の利点もあるかと思います。疑似兄弟姉妹の関係になればそれは一生もの  
かもしれません。クラス替えをすれば関係が薄くなります。